

3-1

悪 臭

最終処分場敷地境界に設定した3地点（No.1～No.3）で春季から秋季にかけて調査を実施しました。

その結果、春季のNo.3でアンモニアが検出されましたが、これは調査時の風向から風上側である隣接する処分場方向からの臭気による影響と考えられます。

その他の地点では特定悪臭物質は検出されませんでした。

人の嗅覚により試験を行う臭気指数については、全ての調査地点で10未満でした。

また、平成24年12月に最終処分場が供用を開始したことを受け、冬季からは事業の実施に伴う悪臭調査を、最終処分場敷地境界に設定した同地点で引き続き実施しました。

その結果、いずれの地点も特定悪臭物質は検出されませんでした。

また、人の嗅覚により試験を行う臭気指数については、全ての調査地点で10未満でした。

3-2

環境騒音・環境振動

本調査の調査地域は環境基準の適用を受けませんが、最終処分場の建設工事に伴う騒音・振動の影響を把握するため、最終処分場区域周辺2地点で環境騒音・環境振動の調査を実施しました。

環境騒音の騒音レベル（ L_{Aeq} ）は、表3-1に示したとおりです。

春季のNo.1は夜間でやや高い値がみられましたが、これはカエルの鳴き声の影響によるものでした。

また、評価書における工事中の予測では、本事後調査のNo.2付近での値を予測しているため、No.2の調査結果と比較しました。

その結果、建設工事時間中である昼間の1時間値の最大値は、春季・夏季とも52dB、秋季は51dB、冬季は53dBであり、いずれも予測結果（68dB）を下回る値でした。

環境振動は、春季のNo.1で30dB未満（測定機器の保証最低値30dB）～42dB、No.2で30dB未満～45dB、夏季のNo.1で30dB未満～31dB、No.2で30dB未満～39dB、秋季のNo.1で30dB未満、No.2で30dB未満～36dB、冬季のNo.1で30dB未満～31dB、No.2で30dB未満～34dBでした。

なお、評価書では工事中の環境振動の予測は行っていない。

表 3－1 環境騒音調査結果

(単位：dB(A))

地点	調査時期 時間区分	春季	夏季	秋季	冬季
No. 1	昼 間	58	55	48	50
	夜 間	58	51	44	47
No. 2	昼 間	49	48	47	46
	夜 間	43	42	38	37
	昼間の 1 時間値の最大値	52	52	51	53
	評価書予測結果	68			

※：本事後調査のNo. 2 が、評価書の予測地点に近接しているため、比較は同地点についてのみ実施した。

3－3

河川水

最終処分場事業区域の下流 4 地点 (No. 1～4) において、河川水の水質調査を実施しました。

その結果のうち主な項目について、昨年度の調査結果とともに表 3－2 に、各地点ごとの調査結果と、地点の位置関係を示した模式図を図 3－1 に示しました。

昨年度の調査結果と比べて、COD、TP で昨年度をやや下回る値がみられましたが、他の項目については、各地点とも昨年度と同程度の値でした。

表に示した項目以外の項目（健康項目等）については、昨年度の調査結果と同程度又は定量下限値未満でした。

なお、No. 3（内山町地内）地点については、年 4 回（各季）の調査結果です。

また、平成 24 年 12 月に最終処分場の供用を開始したことを受け、平成 25 年 1 月からの調査は施設供用後に係る調査として、引き続き最終処分場下流の 4 地点 (No. 1～4) において、水質調査を実施しました。

表 3-2 (1) 主な項目の調査結果 (No. 1、2)

	単位	No. 1		No. 2	
		平成24年度 事後調査	平成23年度 事後調査	平成24年度 事後調査	平成23年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	—	7.8 (7.5~8.5)	7.6 (7.2~8.2)	7.8 (7.6~8.0)	7.7 (7.2~8.2)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg-O/ℓ	0.8 (<0.5~1.6)	0.9 (<0.5~1.3)	3.1 (1.2~4.7)	3.7 (1.8~11)
化学的酸素要 求量(COD)	mg-O/ℓ	1.7 (0.8~3.2)	2.6 (1.5~3.5)	4.1 (2.6~9.3)	5.9 (3.1~10)
浮遊物質量 (SS)	mg/ℓ	4.4 (1.5~9.1)	4.8 (<1.0~17)	4.5 (1.6~7.9)	4.9 (<1.0~18)
全窒素 (T-N)	mg-N/ℓ	8.9 (7.9~9.9)	9.1 (5.6~13)	12 (9.9~14)	13 (7.2~16)
全リン (T-P)	mg-P/ℓ	0.024 (0.012~0.048)	0.028 (0.008~0.095)	0.032 (0.014~0.057)	0.041 (0.013~0.10)

注) 表中の数字は「平均値(最小値~最大値)」を示す。

表 3-2 (2) 主な項目の調査結果 (No. 3、4)

	単位	No. 3 (内山町地内)		No. 4 (八王子町地内)	
		平成24年度 事後調査	平成23年度 事後調査	平成24年度 事後調査	平成23年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	—	7.8 (7.7~7.9)	7.5 (7.3~7.6)	7.8 (7.6~8.1)	7.7 (7.4~8.3)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg-O/ℓ	2.2 (1.8~2.5)	2.4 (1.2~4.8)	1.5 (1.1~2.1)	1.8 (0.9~2.8)
化学的酸素要 求量(COD)	mg-O/ℓ	4.7 (4.1~5.9)	5.9 (4.6~8.6)	3.5 (2.4~5.3)	4.8 (3.1~6.4)
浮遊物質量 (SS)	mg/ℓ	4.4 (3.3~5.3)	4.3 (2.8~6.0)	3.6 (2.4~4.9)	3.5 (2.7~4.9)
全窒素 (T-N)	mg-N/ℓ	8.6 (7.3~9.6)	9.4 (7.6~10)	6.4 (5.4~7.2)	6.6 (4.9~7.9)
全リン (T-P)	mg-P/ℓ	0.055 (0.031~0.084)	0.086 (0.028~0.16)	0.043 (0.031~0.056)	0.054 (0.035~0.088)

注 1) 表中の数字は「平均値(最小値~最大値)」を示す。

注 2) No. 3 は春季(5月)、夏季(8月)、秋季(11月)、冬季(2月)の結果です。

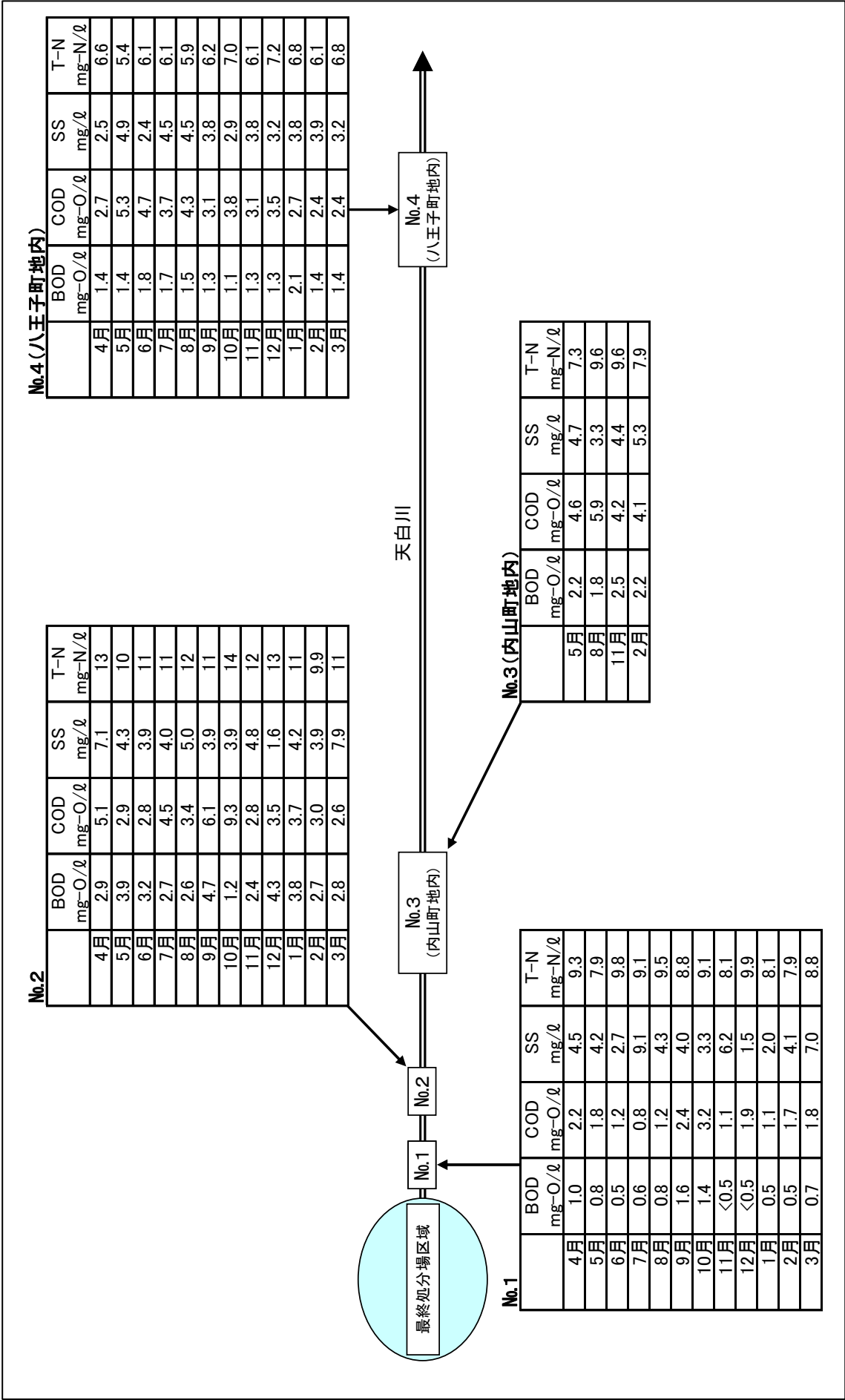


図 3-1 水質調査結果の地点模式図

また、環境ホルモンのうち、夏季及び冬季にダイオキシン類の調査を実施しました。

ダイオキシン類は、表 3－3 に示したとおり、No. 1、2 では昨年度をやや上回る値でしたが、No. 4 では下回る値でした。なお、今回より No. 3 でも調査を実施しておりますが、夏季は他の 3 地点と同程度の値、冬季は No. 1、2 を下回り、No. 4 をやや上回る値でした。

この結果を、表 3－4 に示したとおり、三重県が平成 23 年度に実施した調査の平均値と比べてみると、No. 1 で県の平均値をやや上回る値でしたが、他の地点は平均値を下回る値でした。

ダイオキシン類以外の環境ホルモンは、表 3－5 に示したとおりビスフェノール A が No. 2 で検出されましたが、その他の物質は検出下限値未満でした。

表 3－3 ダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/ℓ)

地 点	事後調査			三重県の調査結果 (夏季：県内 35 地点) (冬季：県内 23 地点)
No. 1	平成 24 年度	夏季	0.18	0.87 (0.016～7.9)
No. 2			0.20	
No. 3			0.15	
No. 4			0.18	
No. 1		冬季	0.58	0.13 (0.022～0.34)
No. 2			0.23	
No. 3			0.10	
No. 4			0.067	
No. 1	平成 23 年度	夏季	0.15	
No. 2			0.12	
No. 3			—	
No. 4			0.24	
No. 1		冬季	0.14	
No. 2			0.22	
No. 3			—	
No. 4			0.084	

注 1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/ℓ 以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用されます。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 23 年度のダイオキシン類環境調査等結果（環境生活部大気・水環境課、平成 24 年 10 月 19 日）」で、値は夏季・冬季の「平均値（最小値～最大値）」です。

表 3-4 ダイオキシン類調査結果（年平均値）

（単位：pg-TEQ/ℓ）

地点	平成 24 年度事後調査	三重県の調査結果 (41 地点の年平均値)
No. 1	0.38	0.30 (0.016~2.1)
No. 2	0.22	
No. 3	0.13	
No. 4	0.12	

注) 三重県の調査結果は、「平成 23 年度のダイオキシン類環境調査等結果（環境生活部大気・水環境課、平成 24 年 10 月 19 日）」で、値は年間の「平均値（地点別平均値の最小値～最大値）」です。

表 3-5 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類以外の検出された物質のみ）

物質名	単位	No. 1		No. 2		No. 4	
		平成 24 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 23 年度
ビスフェノール A	μg/ℓ	<0.01	0.16	0.08	0.09	<0.01	0.12

3-4	地下水
------------	------------

最終処分場区域内の 3 地点において、地下水の水質調査を実施しました。

その結果について、主な項目を抜粋して表 3-6 に示しました。

なお、平成 24 年 12 月に最終処分場の供用を開始したことを受け、同月からの調査は施設供用後に係る調査として、引き続き同地点において、調査を実施しました。

この最終処分場供用後に係る調査は、毎月実施する予定です。

表 3-6 (1) 調査結果 (No.A : 抜粋)

項 目	単 位	4月18日	7月9日	10月15日	12月19日	1月8日	2月19日	3月8日
外 観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	—	5.8	5.6	6.0	5.8	5.7	5.9	5.6
BOD	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
COD (Mn)	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
亜 鉛	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性鉄	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/ℓ	0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
全窒素	mg-N/ℓ	11	11	11	11	11	10	9.8
全 磷	mg-P/ℓ	0.048	0.035	0.027	0.028	0.025	0.030	0.034
硬 度	mg/ℓ	75	77	82	77	79	77	73
電気伝導率	mS/m	20	21	22	21	21	21	21
硫酸イオン	mg/ℓ	20	21	21	22	23	23	23
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100mℓ	<2	33	5	2	<2	<2	<2
塩化物イオン	mg/ℓ	17	17	20	18	19	17	17
ふっ素	mg/ℓ	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08

表 3-6 (2) 調査結果 (No.B : 抜粋)

項 目	単 位	4月18日	7月9日	10月15日	12月19日	1月8日	2月19日	3月8日
外 観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	—	5.9	5.7	5.9	5.8	5.8	5.9	5.7
BOD	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
COD (Mn)	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
亜鉛	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
溶解性鉄	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/ℓ	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
全窒素	mg-N/ℓ	7.4	7.9	6.3	5.3	5.4	5.3	5.4
全燐	mg-P/ℓ	0.007	<0.003	0.004	0.003	0.003	<0.003	0.005
硬 度	mg/ℓ	44	61	79	77	82	77	93
電気伝導率	mS/m	34	42	47	44	44	49	52
硫酸イオン	mg/ℓ	36	40	76	77	75	73	73
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100mℓ	<2	7	6	<2	<2	<2	<2
塩化物イオン	mg/ℓ	56	71	68	62	66	40	95
ふっ素	mg/ℓ	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08

表 3-6 (3) 調査結果 (No.C : 抜粋)

項目	単 位	4月18日	7月9日	10月15日	12月19日	1月8日	2月19日	3月8日
外 観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	—	6.1	6.1	6.2	6.1	6.1	6.3	6.0
BOD	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
COD (Mn)	mg-O/ℓ	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
亜鉛	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性鉄	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/ℓ	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
全窒素	mg-N/ℓ	5.7	5.3	5.4	5.6	5.5	5.1	5.0
全燐	mg-P/ℓ	0.004	<0.003	0.005	<0.003	0.003	<0.003	0.004
硬 度	mg/ℓ	53	51	55	55	73	68	71
電気伝導率	mS/m	30	33	34	34	34	34	33
硫酸イオン	mg/ℓ	70	68	63	57	56	57	57
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100mℓ	<2	2	790	5	13	<2	<2
塩化物イオン	mg/ℓ	26	28	31	36	39	79	37
ふっ素	mg/ℓ	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08

また、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

ダイオキシン類の調査結果は、表 3-7 に示したとおり、三重県が平成 23 年度に実施した調査の平均値と比べてみると、全地点とも県の平均値を下回る値でした。

その他の環境ホルモンでは、全て検出下限値未満でした。

表 3-7 ダイオキシン類調査結果

物質名	単 位	平成 24 年度事後調査			三重県の調査結果 (県内 5 地点)
		No.A	No.B	No.C	
ダイオキシン類	pg-TEQ/ℓ	0.038	0.041	0.038	0.058 (0.014~0.21)

注 1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/ℓ 以下 (環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日)」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用されます。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 23 年度のダイオキシン類環境調査結果」(三重県環境生活部大気・水環境課、平成 24 年 10 月 19 日)で、値は 5 地点の「平均値 (最小値～最大値)」です。